

役員一覧

(2026年6月26日現在)

取締役

企業価値の
最大化を
主導するCEO

代表取締役社長
是枝 周樹



1964年2月24日生
代表取締役を20年
以上務め、経営の知
見と強い執行能力を
有する

志と経営知見で
持続的成長を
牽引する創業者

取締役会長
是枝 伸彦



1937年9月11日生
1977年に取締役と
してMJSを設立後、
一貫して経営を担う

風土改革を
実行する
コンプライアンス
推進担当役員

取締役副会長
鈴木 正徳



1954年10月9日生
中小企業庁長官など
の要職を歴任後、複
数企業の取締役を
兼職
▶取締役鈴木のコ
ンプライアンスに対
する考え P.48

営業戦略を
リードする
営業本部長

取締役常務執行役員
石川 哲士



1962年11月21日生
全国の支社長や統括
部長など、営業部門
での幅広い経験を有
する

財務面から
経営基盤を
支えるCFO

取締役常務執行役員
佐藤 順一



1962年4月20日生
経営管理部門での経
験と実績を活かし、
現在は財務戦略を
統括
▶取締役佐藤の財務
戦略に対する考え
P.32

製品革新を
主導する
新CTO

取締役常務執行役員
安河内 崇



1978年9月8日生
各社で開発責任者な
どを歴任後、2026
年4月よりCTOに
就任

価値ある税務・
会計・経営情報
を発信

取締役
大久保 利治



1955年12月18日生
開発や営業の社内要
職を歴任し現在は税
経システム研究所所
長代行

スキルマトリックス

① 企業経営・経営戦略	●	●	●		●	
② 財務・会計・税務				●	●	●
③ 中小企業・小規模事業者支援		●	●	●		●
④ マーケティング・IT・ コンサルティングセールス	●	●		●	●	●
⑤ 新規事業創出	●					
⑥ 法務・リスクマネジメント・ コンプライアンス			●		●	

各スキルの選定理由

- ① 事業環境が大きく変化する中で、会社の持続的な成長・発展のために重要と考えられる
- ② あらゆるステークホルダーに対して、企業情報および財務情報を正確かつ速やかに情報開示するために重要と考えられる
- ③ 全国の税理士・公認会計士事務所とともに中堅・中小企業の経営革新・DXを支援することで、地域経済ひいては日本経済の発展に貢献するために重要と考えられる
- ④ お客さまに喜んでいただける新しい価値を提供し、その成長・発展を支援するとともに、継続的な企業価値向上を目指すために重要と考えられる
- ⑤ 急速なデジタルシフトの流れの中で、イノベーションを推進し、時代に応じてビジネスモデルを進化・変化させるために重要と考えられる
- ⑥ 経営意思決定の透明性向上、牽制機能の発揮と現場リスク管理の強化、健全な企業運営、健全成長への基盤強化のために重要と考えられる

| 役員一覧 |

取締役

金融や経営に関する
高度な知見で
経営監督を主導

社外取締役
五味 廣文



1949年5月13日生
金融庁長官や金融機関会長を歴任し、金融行政・経営戦略に精通

経済政策と人材育成の
戦略的視座で
経営を強化

社外取締役
北畑 隆生



1950年1月10日生
経済産業事務次官や大学学長などを経て高度な人材育成に強みを持つ

法学・会計・保険の
専門的知見で
経営の透明性を確保

社外取締役
石山 卓磨



1947年2月17日生
弁護士や大学教授などを歴任し、会計専門職大学院の学長も務める

会計分野の
豊富な知見と
多様な視点で
取締役会を強化

社外取締役
山内 暁



1974年11月5日生
大学教授を務め、ジェンダーや世代等における多様な視点を有する

▶社外取締役山内のメッセージ P.46

監査役

多様な実務経験を
活かし監査の
実効性を向上

常勤監査役
牧野 博史



1959年7月1日生
営業部門や内部監査室長の経験を背景に、経営の適法性・妥当性の確保に寄与

検事総長の経験と
法的知見で
経営の適法性を
堅守

社外監査役
但木 敬一



1943年7月1日生
法務事務次官や検事総長を経て弁護士として活動中

税財務・金融の
卓越した知見で
監査の質を向上

社外監査役
中原 広



1958年7月24日生
国税庁長官や金融機関代表役員を歴任し、税財務・金融に精通

スキルマトリックス

① 企業経営・経営戦略	●		●	
② 財務・会計・税務	●		●	●
③ 中小企業・ 小規模事業者支援		●		●
④ マーケティング・IT・ コンサルティングセールス				
⑤ 新規事業創出		●		
⑥ 法務・リスクマネジメント・ コンプライアンス	●	●	●	●

				●
	●		●	

各スキルの選定理由

- ① 事業環境が大きく変化の中で、会社の持続的な成長・発展のために重要と考えられる
- ② あらゆるステークホルダーに対して、企業情報および財務情報を正確かつ速やかに情報開示するために重要と考えられる
- ③ 全国の税理士・公認会計士事務所とともに中堅・中小企業の経営革新・DXを支援することで、地域経済ひいては日本経済の発展に貢献するために重要と考えられる
- ④ お客さまに喜んでいただける新しい価値を提供し、その成長・発展を支援するとともに、継続的な企業価値向上を目指すために重要と考えられる
- ⑤ 急速なデジタルシフトの流れの中で、イノベーションを推進し、時代に応じてビジネスモデルを進化・変化させるために重要と考えられる
- ⑥ 経営意思決定の透明性向上、牽制機能の発揮と現場リスク管理の強化、健全な企業運営、健全成長への基盤強化のために重要と考えられる

コーポレート・ガバナンス

経営体制および内部統制システムの整備を経営の最重要課題のひとつと位置づけ、子会社を含めたガバナンス強化により、企業価値向上を推進します。

コーポレート・ガバナンス体制図 (2026年6月26日現在)

1 取締役会

開催回数 17回 (2025年度)

議長 代表取締役社長 是枝 周樹

総員 11名 (社内7名、社外4名)

主な議題

- 経営計画・業績などの重要課題
- 成長戦略・投資 (新規開発・M & A等)
- 報酬・指名諮問委員会の審議結果
- サステナビリティ経営・リスク管理・コンプライアンスに関する事項

2 監査役会

開催回数 14回 (2025年度)

議長 常勤監査役 牧野 博史

総員 3名 (社内1名、社外2名)

主な議題

- 監査方針・監査計画
- 会計監査人の評価・連携
- 取締役職務執行および重要会議の監査
- 内部統制システムの整備・運用状況

3 指名諮問委員会

開催回数 1回 (2025年度)

委員長 代表取締役社長 是枝 周樹

総員 7名 (社内2名、社外5名)

主な議題

- 取締役の選解任方針
- 次期取締役の選任
- 代表取締役・役付取締役の選定
- スキルマトリックスの検討

4 報酬諮問委員会

開催回数 1回 (2025年度)

委員長 代表取締役社長 是枝 周樹

総員 7名 (社内2名、社外5名)

主な議題

- 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針

5 経営会議

開催回数 25回 (2025年度)

議長 代表取締役社長 是枝 周樹

総員 8名 (社内8名、社外0名)

主な議題

- 年度予算の策定・進捗管理
- 重要案件の事前審議 (M&A・投資等)
- 各事業・子会社の業績および事業運営の管理
- 組織・人事・規程の審議

6 サステナビリティ委員会

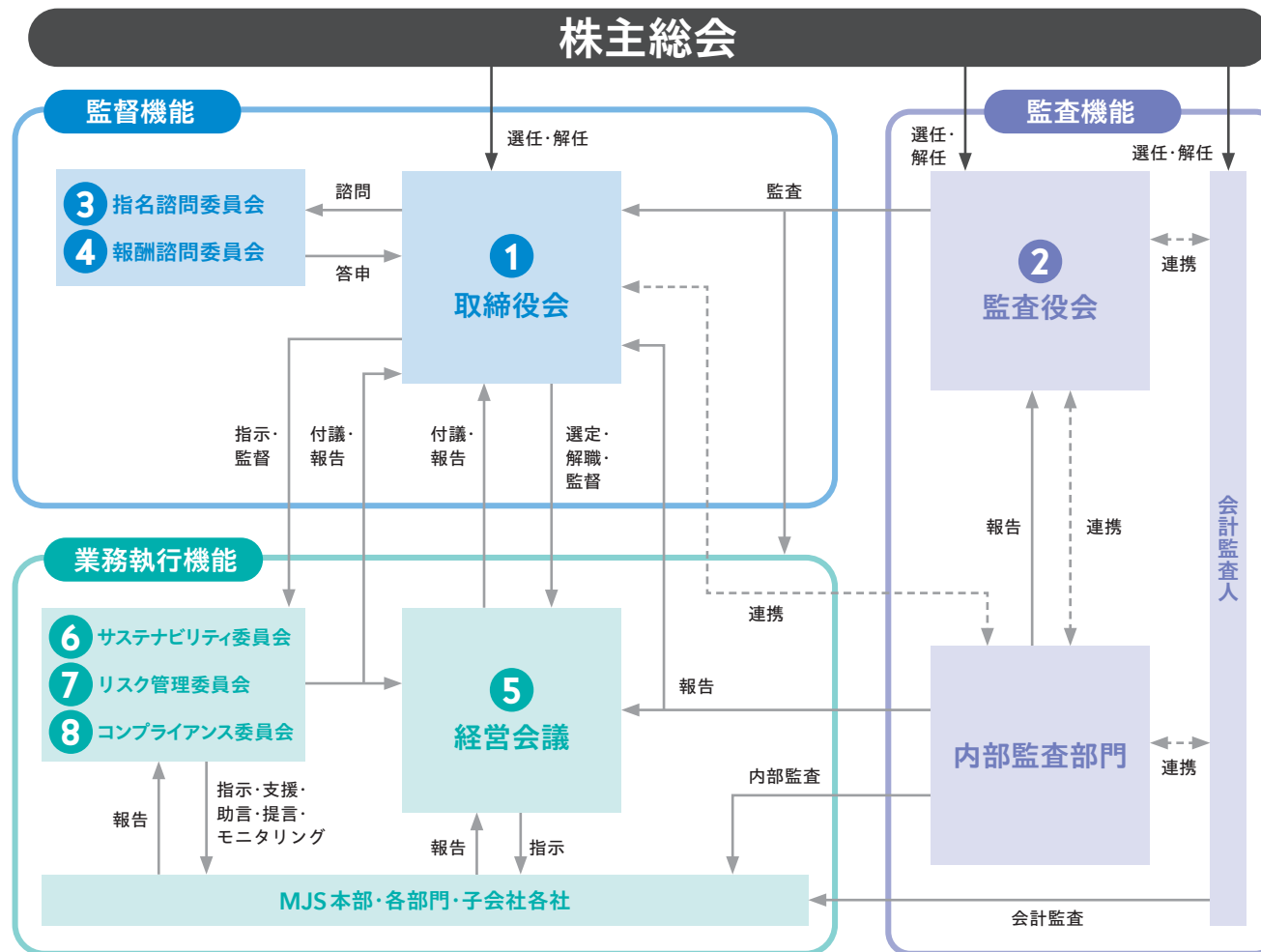
▶詳細はP.11

7 リスク管理委員会

▶詳細はP.47

8 コンプライアンス委員会

▶詳細はP.48



| コーポレート・ガバナンス |

コーポレート・ガバナンス強化の変遷

MJSは、企業価値向上とステークホルダーからの信頼確保に向け、取締役会の実効性向上や各種委員会の設置を通じてコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。今後も経営環境の変化を踏まえ、ガバナンスのさらなる高度化を図っていきます。

2024	●リスク管理委員会の設置
2023	●譲渡制限付株式報酬制度の導入 ●女性の社外取締役選任 ●コンプライアンス委員会の設置 ●サステナビリティ委員会の設置
2022	●スキルマトリックスの開示
2020	●指名・報酬諮問委員会の設置
2017	●独立社外取締役を4名に増員
2016	●社外取締役比率を3分の1以上に ●独立社外取締役を3名に増員 ●取締役会の実効性評価を開始

取締役会において、取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針を決議しており、その決議に際しては、あらかじめ報酬諮問委員会へ諮問し、答申を受けています。

また、取締役会は、取締役の個人別の報酬等について、決定方法および決定された報酬等の内容が取締役会で決議された決定方針と整合していることや、報酬諮問委員会からの答申が尊重されていることを確認しており、当該方針に沿うものであると判断しています。

取締役会では、取締役会の実効性について、すべての取締役および監査役を対象に無記名方式のアンケートを実施し、分析・評価を行いました。この結果、取締役会が右記のとおり総じて機能していると評価しました。また、今後の持続的成長とガバナンスの高度化に向けて、より一層グループ全体の課題に取り組むことを確認しました。

取締役および監査役の報酬等

基本方針

多様で優秀な人材の獲得と継続的な企業価値向上を目指し、上場企業全体および同業他社の報酬水準を考慮した役割・職責に相応しい水準とすることを基本方針としています。報酬は固定報酬・業績連動報酬・非金銭報酬で構成され、社外取締役は固定報酬のみとしています。

取締役および監査役の報酬等の額

役員区分	報酬等の総額	報酬等の種類別の総額			対象となる 役員の員数
		基本報酬	業績連動報酬等	非金銭報酬等	
取締役 (うち社外取締役)	421百万円 (51百万円)	297百万円 (51百万円)	99百万円 (-)	23百万円 (-)	12名 (4名)
監査役 (うち社外監査役)	38百万円 (19百万円)	38百万円 (19百万円)	- (-)	- (-)	3名 (2名)
合計 (うち社外取締役 および社外監査役)	459百万円 (70百万円)	335百万円 (70百万円)	99百万円 (-)	23百万円 (-)	15名 (6名)

※上表の金額および員数は、2026年3月31日をもって辞任した取締役1名および2026年6月26日開催の定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでいます。

取締役会の実効性の評価

実効性が確保されていると確認した点

- 人数および社内外の割合は概ね適切であり、多様な知見に基づく意思決定と監督機能が適切に発揮されている。
- 開催頻度および所要時間は適切であり、自由に発言できる環境が整備されている。
- 付議事項は概ね適切であり、投資家やステークホルダーの視点を踏まえた議論が行われている。

今後の課題点

- ジェンダー・年齢に加え、特にIT業界の企業経営経験者の参画など、多様性のさらなる拡充が課題である。
- 資料配布の早期化や時間管理の徹底、重要度に応じたメリハリある議事運営、デジタル化の推進が求められる。
- 外部視点や業界比較を踏まえた分析の充実に加え、中期経営計画やサステナビリティに関する議論の深化、グループガバナンスの強化が必要である。

社外取締役メッセージ

ベンチャースピリットで、さらなる成長へ

山内 暁



早稲田大学商学学術院教授として、会計分野の研究・教育に従事。財務会計および無形資産会計を専門とし、著書『暖簾の会計』など学術分野においても高い評価を受ける。幅広い視点から経営に対する助言を行い、京王電鉄株式会社の社外取締役（監査等委員）およびMJSの社外取締役を務める。

社外取締役としての役割

大学教員として、研究・教育・アドミニストレーション（アドミ）を長年行ってきました。研究面では、会計学の中でも特に財務会計・制度会計とよばれる分野を専門としてきました。また、教育面では、通常の講義に加え、学部ゼミから大学院ゼミまで多くの場において、多種多様な学生とともに過ごしてきました。さらにアドミでは、執行部としても学内運営にも携わってきました。そのような経験から、MJSの社外取締役として、自分の専門分野のみならず、「組織の担い手としての人」や「経営の俯瞰」を意識するようにしています。

MJSの強み

「確かなつながり」と「ベンチャースピリット」

MJSは長年にわたり、会計事務所ネットワークを基盤に、中堅・中小企業と向き合ってきた企業であり、そのような繋がりがMJSの大きな強みであると考えています。そのうえで、取締役会において感じるのは、さらなる成長を目指したベンチャースピリットです。企業の持続的な成長のためにはベンチャースピリットは欠かせないものですが、企業の規模が大きくなればなるほど、それは難しくなってきます。それが社内に根付いているということも、MJSの強みであると考えています。そのような中、取締役会は自由に発言できる環境にあり、経営全体のバランスおよびアクセルとブレーキを意識した前向きな議論が行われています。

MJSの課題

「グループシナジー」と「ダイバーシティ」

一方、多くの課題を抱えていることも事実です。組織は変化していくべきものですが、社会の流れが常に見まぐるしく変わる今、組織がいかに変化していくかが、さらに厳しく問われている時代に入っていると感じています。

ベンチャースピリットを持ったMJSならではの多くの施策が打ち出されておりますが、十分に組織全体に浸透させることができていない、という一面もあります。同様の問題が、MJSグループ全体にも見られます。グループ・組織を俯瞰しながら、うまくグループシナジーを創出することができるようにしていく必要があります。

さらに、ダイバーシティも道半ばです。次世代リーダー層として、性別や年齢のへだたりなく自由に意見を表明し、挑戦できる環境がさらに広がっていくことを期待しています。社内の皆さんには、ぜひ、次世代リーダーになることをためらわず、挑戦してもらえたらと思います。

ステークホルダーの皆さまへ

社外取締役として、中堅・中小企業や会計事務所とともに歩み続けてきたMJSの社会的な役割を大切にしながら、新たなフェーズに成長できるよう、支えていきたいと思っています。

リスクマネジメント

MJSグループは、健全成長のためのガバナンスの強化に向け、情報セキュリティやサービス障害などの重要リスクへの取り組みを進め、リスクマネジメントの高度化を図っています。

リスクマネジメント方針

「MJSグループリスク管理方針」に基づき、事業継続性と実効性・効率性を重視してリスクマネジメントの枠組みを整備しています。情報セキュリティリスクなどの重要リスクに対し平時のリスクコントロールと合わせて有事の対応力強化に取り組み、また、3線ディフェンス体制を確立することで、ステークホルダーの信頼確保と高品質なサービスの持続的な提供を目指します。

リスク管理委員会

開催回数 4回(2025年度)

委員長 代表取締役社長
是枝 周樹

総員 13名

2025年度の主な審議事項

重要リスクを選定し、リスクオーナー統括のもと、管理策・評価基準の整備、モニタリング、有効性評価を通じた管理体制の強化を図りました。

今後の取り組み

各部门・グループ会社と連携した重要リスク管理、管理策の改善、評価基準のさらなる実効化を通じリスク管理のPDCAの定着・深化を進めます。

情報セキュリティ

全事業所が保有する重要な情報資産を守り、堅牢な情報セキュリティを確立して維持することを目的に、MJSグループで働くすべての従業員を対象とした「情報セキュリティ基本方針」と「個人情報保護方針」を定め、一貫した方針のもと各種情報資産の管理・運用に努めています。

▶情報セキュリティおよび個人情報保護に関する方針の詳細はこちら☞

製品・サービスのセキュリティ

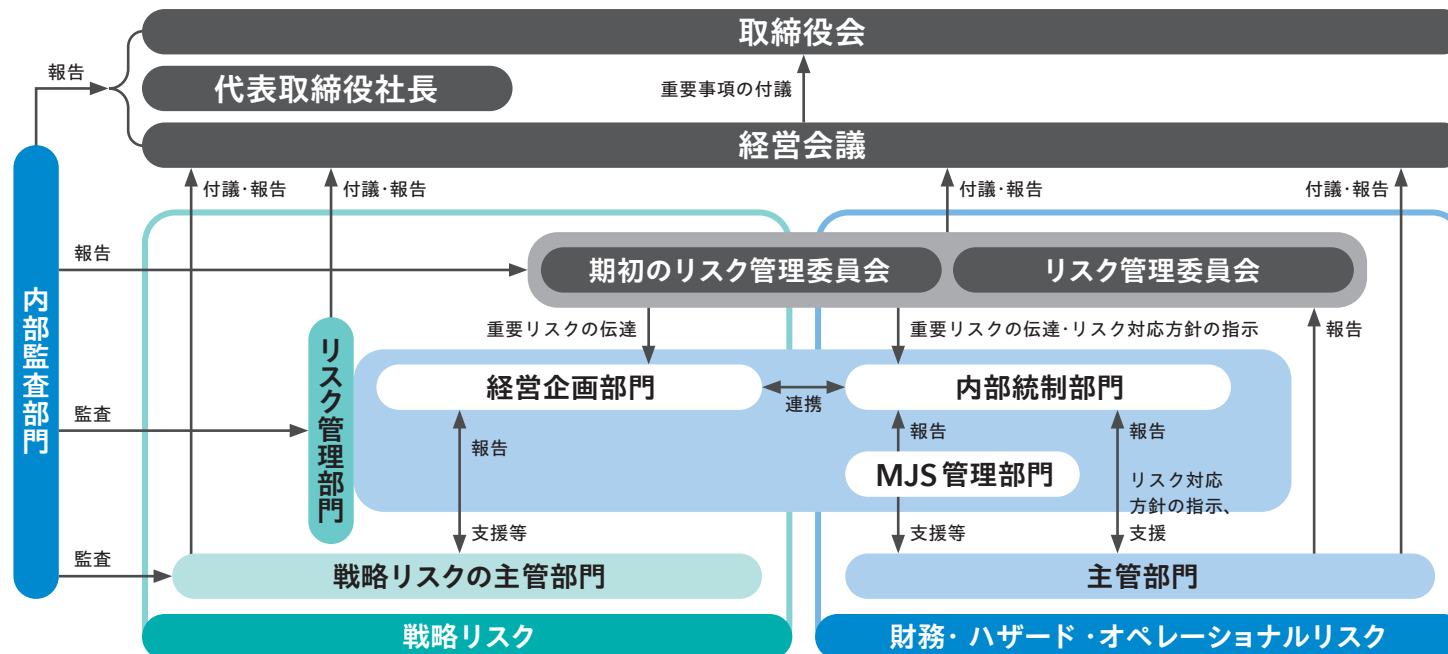
クラウドサービスを含む提供サービスにおいて、情報セキュリティ対応状況の定期的な確認と評価を実施しています。

24時間365日の監視体制を構築し、高度化・巧妙化するサイバー攻撃をはじめとする各種脅威に対して、検知し迅速な対応策を講じることで、安定的かつ安全なサービス提供の維持に努めています。

情報セキュリティの管理体制

ISO/IEC27001に基づき、情報資産の適切な管理と不正利用や漏えいの防止に継続的に取り組んでいます。また、DXの推進による業務基盤の高度化と、多様な働き方を支える情報インフラの整備を通じて、クラウド活用の進展に対応したセキュリティ対策の強化を図り、全社的な管理体制の実効性向上に努めています。

リスク管理体制 (2026年5月15日現在)



経営企画部門が事務局を務める経営会議にて継続的に取り扱い、経営判断に反映させています。

リスク対応方針に基づき、主管部門が日常的なリスク管理を行い、管理部門が支援や枠組みの整備等を担います。それらの活動を、リスク管理委員会が定期的にモニタリングし、必要に応じて内部統制部門の支援のもと見直しや改善を図っています。

コンプライアンス

法令および社内規定遵守を基盤に、コンプライアンス体制の実効性向上と風通しの良い企業文化醸成により、ステークホルダーからの信頼確保と持続的な企業価値向上を目指します。

コンプライアンス方針

「社会的人格の錬成」を企業理念とし、「営業五大方針」および「MJSグループ倫理行動規範」のもと、法令・社内規定の遵守を徹底しています。あわせて、コンプライアンス意識の浸透と不正の未然防止・再発防止に取り組み、自律的かつ誠実に行動できる企業文化の醸成に努めています。

コンプライアンス委員会

開催回数 5回(2025年度)

委員長 取締役副会長 鈴木 正徳

総員 13名(社内10名、社外3名)

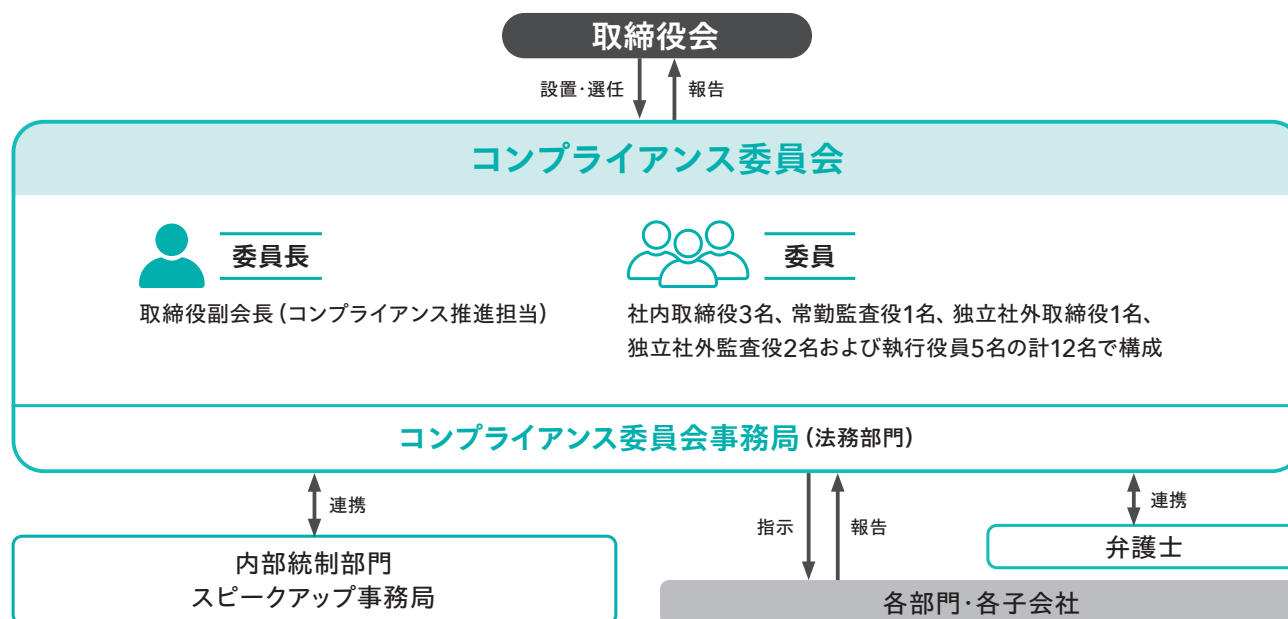
2025年度の重点審議事項

- ハラスメント防止に向けた多角的視点による実態調査等の取り組み
- カスタマーハラスメント実態調査および対応マニュアルの整備
- 労働時間管理に関する取り組み

今後の取り組み

労働時間の実態把握と適正化を重点課題として推進するとともに、カスタマーハラスメント研修や階層別ハラスメント研修を実施し、課題の原因分析と根本解決に取り組みます。

コンプライアンス推進体制 (2026年6月26日現在)



Message



取締役副会長
鈴木 正徳

ステークホルダーの皆さまから「揺るがない信頼」をいただき、中長期的にも企業の成長を確実なものにしたい。この理念を実現するためにコンプライアンスに万全を期しています。2023年にコンプライアンス委員会を設置し、様々な課題を役職員が同じ目線で徹底的に話し合い、納得感のある施策を集中的

に実行しています。私たちが目指しているものは、法令、社内規則の遵守は当然ですが、それにとどまりません。お互いに尊重し合う、風通しの良い職場をつくり、企業文化・倫理を醸成し、企業価値を持続的に高めたいと考えています。今後も、皆さまから信頼されるよう頑張ってまいります。